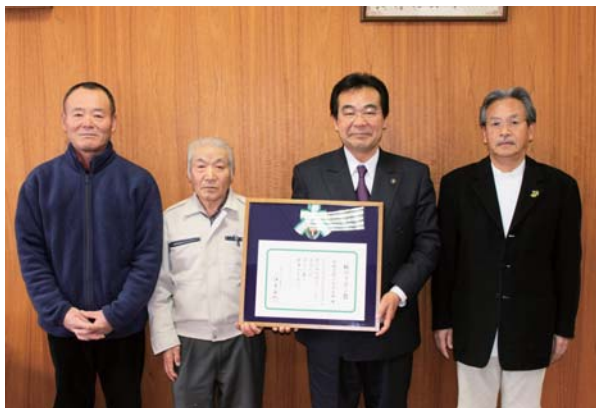




熊日緑のリボン賞を受賞 内牧花原川を守る会



長年にわたり地域で社会奉仕や環境美化活動が続いている人たちを称える第100回熊日緑のリボン賞（7団体・4個人）が表彰され、「内牧花原川を守る会」（小嶋維男会長ほか70人）が見事受賞しました。

会の皆さんは、花原川の美しい環境を維持して15年間、年4回美化活動を行っています。

花原川は、平成2年の水害後に整備され兩岸の遊歩道沿いには桜並木も整備されています。その後、有志たちで上流500mの荒れた土手の除草作業をしたのをきっかけに、2年後には「内牧花原川を守る会」を発足し、兩岸4kmを整備するようになったものです。

蒲島知事が歩いて内牧の声聞く



蒲島知事が県内各地へ出向き、住民と意見交換する「くまもと夢トーク」が、1月20日、内牧商店街などで行われ、知事が自らまちを歩き、商店街の人たちと会話を弾ませました。道中の案内は、地域づくりに意欲的な「うちのまき案内人協会」が担当。知事は町湯のある街並みを見ながら各商店に立ち寄り、それぞれ努力・工夫している点などにしっかり耳を傾けられました。

最後の意見交換では内牧の現状を知事に話し、厳しい中にも九州新幹線全線開通に向け、県内一の観光地にふさわしい受け入れをしようと頑張っていることを説明。知事は「内牧は昔よく来た懐かしい所。今日は内牧の方々の話を聞き活力を感じた。大いに期待しています」と感想を述べられました。



内牧温泉手ぬぐいを首にかけ
商店街を歩く知事



農業後継者に女性との出会い提供

未婚の農業後継者に女性との出会いの機会を提供しようと、農事組合法人山田東部牧場（湯浅正司組合長）が、お見合いコンペ「第1回赤い糸の会」を1月17日催しました。参加したのは、結婚を考えていて農業や阿蘇の暮らしに興味がある女性10人と地元の農業者男性11人。自己紹介の後、男性たちが自己アピールできることで交流をしようと、イチゴの収穫やトラクター運転体験、のっぺ汁づくり、ハイキングなどが楽しい雰囲気の中行われました。参加した男性は「参加も迷い、始まるまで緊張していたが、こんなに気楽で楽しいとは思わなかった。今度も参加します」と、女性との交流に対する考えが全く変わったと話し、これに企画の責任者井野優さんは「効果があった」と安堵。なお、今回は3組が交際するようになったということです。「農業者の後継者不足は、深刻な問題。周囲の様子に見兼ねて出会いの機会を作った。今回、当牧野組合の社会奉仕の一つとして行ったが、出会いの機会は数が多い方が成果が上がる。どこが主催してもいい、市民の皆さんで協力できる方はぜひ検討してほしい」と井野さん。将来、阿蘇地域で見合いの窓口ができればと願われています。



▲会話を弾ませながら水田でトラクター運転体験を楽しむ参加者